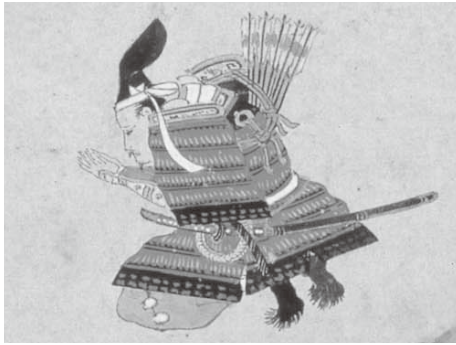


高望王の下向と桓武平氏の関東土着

平安時代のはじめ桓武天皇のひ孫にあたる高望王は、上総介(千葉県の中部を治める役人)に任命されると都には戻らずそのままその地に土着し、次々に私有地を広げていきました。さらにその子の国香、良持(将)、良正、良文たちは関東を中心に各地を支配していきました。平安時代のおわり頃に朝廷の中で勢力を持った平清盛は国香の子孫です。また、良文の子孫には千葉氏や上総氏がいます。



高望王と妃 『紙本著色千葉妙見大縁起絵巻』より 栄福寺蔵 非公開



平良文 『紙本著色千葉妙見大縁起絵巻』より 栄福寺蔵 非公開

平良文は、高望王の子。相模の村岡(現神奈川県藤沢市)を本領とし、村岡余五郎と称した。将門の乱では、一定の功績があったものと考えられている。この乱の前後に下総国の相馬郡内に所領を獲得した。この所領は、以後良文の本流に継承された。



上総国分尼寺復元模型 市原市教育委員会 高望が赴任した上総国府は、国分寺、国分尼寺の近くにあったと推定される。

